



2024年証券アナリスト第1次試験（秋試験）

解答速報！

2024/10/11 現在

科目 I

（証券分析とポートフォリオ・マネジメント）

第1問（30点）

I

問1 B 問2 A 問3 C 問4 A 問5 D 問6 B 問7 D 問8 B
問9 C 問10 D

II

問1 C 問2 A 問3 B 問4 B 問5 B

III

問1 C 問2 B 問3 E 問4 A 問5 C

第2問（30点）

I

問1 C 問2 A 問3 A 問4 D 問5 D

II

問1 B 問2 E 問3 B 問4 D 問5 C

III

問1 C 問2 D 問3 C 問4 A 問5 A

第3問（30点）

I

問1 A 問2 A 問3 A 問4 D 問5 A

II

問1 E 問2 C 問3 C 問4 D 問5 C

III

問1 D 問2 C 問3 B 問4 C 問5 A

この解答速報の著作権は TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

TAC

第4問 (30点)

I

問1 C 問2 C 問3 B 問4 B 問5 D

II

問1 E 問2 C 問3 D 問4 C 問5 B

III

問1 E 問2 B 問3 A 問4 A 問5 A

第5問 (30点)

I

問1 B 問2 A 問3 C 問4 B 問5 A

II

問1 B 問2 D 問3 C 問4 E 問5 B

III

問1 B 問2 D 問3 C 問4 E 問5 A

第6問 (20点)

I

問1 B 問2 D 問3 D 問4 D 問5 B

II

問1 B 問2 E 問3 A 問4 C 問5 D

この解答速報の著作権は TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

2024年（秋）証券アナリスト1次試験

科目Ⅰ：証券分析とポートフォリオ・マネジメント

ここ4回の問題数・配点は以下の通り。

問題	分野	2023年 (春)		2023年 (秋)		2024年 (春)		2024年 (秋)	
		10問	30点	10問	30点	10問	30点	10問	30点
第1問	日本の株式市場・株式取引	10問	30点	10問	30点	10問	30点	10問	30点
	企業のファンダメンタル分析	10問		10問		10問		10問	
第2問	株式分析	15問 (30点)		15問 (30点)		15問 (30点)		15問 (30点)	
第3問	債券分析	15問 (30点)		15問 (30点)		15問 (30点)		15問 (30点)	
第4問	デリバティブ分析	15問 (30点)		15問 (30点)		15問 (30点)		15問 (30点)	
第5問	現代ポートフォリオ理論	15問 (30点)		15問 (30点)		15問 (30点)		15問 (30点)	
第6問	ポートフォリオ・マネジメント	10問 (20点)		10問 (20点)		10問 (20点)		10問 (20点)	
合計		90問 (170点)		90問 (170点)		90問 (170点)		90問 (170点)	

制度改定後、問題数・配点といった形式は全く同じ。今後も変わらないだろう。

今回は正誤問題、計算問題とも非常にやさしかった。とくに正誤問題は全編を通じて、「正しい」ものにせよ、「正しくない」ものにせよ、仔細を熟知していなくても最低限の基礎知識と常識で、1つの選択肢に絞れるものが大半を占めた。あまり一般的でない些末な論点や、テクニカルな制度上の論点は試験対策が難しい。この意味でよい傾向だろう。

第1問「Ⅰ：日本の証券市場・株式取引」「Ⅱ・Ⅲ：企業のファンダメンタル分析」：ほぼすべて正誤問題。ごく一部を除き、大半は基礎知識と常識で処理できるだろう。

第2問「株式分析」：前回（2024年・春）、前々回（2023年・秋）以上に素直な問題が多くなり、ちょっとしたミスを誘発しやすい問題もほとんどない。

第3問「債券分析」：計算処理に手間取る問題が減り、前回（2024年・春）見られた切り口の異なる新手の問題は姿を消した。

第4問「デリバティブ分析」：株価指数の先物およびオプションの問題にほぼ特化され、全体として非常にやさしくなった。前回（2024年・春）、突如急増した金利系の問題はセクションⅠ・問5のFRAのみ。また毎回問われていた商品デリバティブは出題されなかった。

第5問「現代ポートフォリオ理論」：あえて挙げれば、今回、最も難しかったのが第5問のセクションⅠかもしれない。たった5問ながら、投資家のリスク選好や裁定価格理論(APT)などについて、かなり正確な理解が必要だろう。このところ、定着しつつあったマルチファクター・モデルの計算問題は、今回は出題されなかった。

第6問「ポートフォリオ・マネジメント」：セクションⅠの正誤問題は、旧制度の試験では問われなかった論点ばかりなので最もやりにくい分野だろう。それでも今回は、基礎知識と常識で「正しい」「正しくない」を見分けられる問題ばかりだった。